

# 教育学部 教育学科 小学校教育コース (令和2・3年度入学生) 履修系統図

## 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

**【教育課程の編成、教育内容】**  
 教育学科小学校教育コースでは、小学校教員において必要な基礎的科目に加え、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、「特別支援教育」、「幼児教育」、「英語教育」、「数学教育」の4つのプログラムに関する科目を置き、各専門的知識を持った小学校教員となるようなカリキュラムを編成します。また、小学校教員の専門性をより深められるよう、応用科目を「子ども教育領域」と「子ども理解領域」に設けます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、学校現場での学びと連動させる科目を置きます。

**〈小学校教員として必要な基礎科目〉**  
 (1) 「教職一般領域」では、教員に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」「教育心理学」「教育課程総論(小・中・高・養)」の4つの科目を配置します。  
 (2) 「初等教育領域」では、教科教育に関する基礎理論や実践論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教育法」などの科目を配置します。

**〈自己の学びを振り返り、問い直し、深め豊かにする科目〉**  
 (3) 「学科共通領域」では、学校現場と大学での学びとを関連させながら、豊かな人間性や実践力、指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップ」「スクールサポーターⅠ～Ⅲ」などの科目を配置します。  
 (4) 「専修領域」では、場に応じた行動を取ることが出来る「開かれた身体」を作るため、1年次に「パフォーマンス演習」を配置します。その上で学校現場での学びである2年次の「インターンシップ」「スクールサポーターⅠ」、3年次の「教育実習」につなげます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、「子どもと家族・社会」などの科目を配置します。

**〈4種の専門教育に関する科目〉**  
 (5) 「専修領域」には、異なった視点から今までの学びを見直す「学びほぐし」を行うため、「数理解探究の扉」などの科目も配置します。  
 (6) 「専修領域」には、多様な子どもと向き合うための専門的な理論と実践論等を学ぶため、「特別支援教育」「幼児教育」「英語教育」「数学教育」の4つのプログラムに応じた科目も配置します。  
**〈小学校教員の専門性をより深める科目〉**  
 (7) 「子ども教育領域」では、これまでの学びや実践を通じた疑問や課題を解決し、学びを深めるための「教科内容探究」や各教科の「初等教育演習」などの深掘り科目のほか、「教科内容研究Ⅰ～Ⅲ」「教科総合演習Ⅰ・Ⅱ」などの進路実現に向けた科目を配置します。  
 (8) 「子ども理解領域」では、変化する社会、学校、子どもの理解を深めるため「多様な子ども理解入門」「子ども発達環境論」「子ども企業研究」などの科目を配置します。

**【教育方法】**  
 (1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならず、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。また、1年次より「パフォーマンス演習」等で状況の変化に合わせて心身を動かし表現する活動を取り入れます。  
 (2) 「数理解探究の扉」などでは、公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前と思っていたことは「なぜ」そうなのだろうか、「なぜ」それが必要なのかを学生自身が理解を組み立て、掘り取っていきけるように、学生個々が多様な方法や側面から「なぜ」にアプローチできるようにします。  
 (3) 情報化の進展に対応するため、アクティブ・ラーニング教室やICT模擬授業教室、様々なICTツールの活用を図ったり、実践力の育成に向け模擬授業(ビデオによる収録も実施)を行ったりして、学修方法の改善に努めます。  
 (4) 学校での実践的な学びを推進するため、3年次の教育実習に加え、1年次の「ハロースクール」、2年次から4年次にかけて「インターンシップ」「スクールサポーターⅠ～Ⅲ」などを実施し、学校での教育活動に積極的に参加します。そして、「子どもと家族・社会」などでは、教育現場で経験したケースや課題を検討します。

**【学修成果の評価方法】**  
 (1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。  
 (2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。  
 (3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。  
 (4) 授業・教育実習(小・中・特別支援)・介護等の体験などの課題活動を通して、教員として必要な資力・能力や適性を評価します。  
 (5) 学修ポートフォリオ(目標・自己評価、履修カルテ等)および上記(2)～(4)をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善を図ります。

身につけるべき能力	領域	1年次	2年次	3年次	4年次	
<b>① 教員としての自己分析・自己研鑽の力</b> 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。	教職一般領域	特別支援教育 教職論 S/W/V 教育心理学 S/W/V	遠隔教育の理論と方法(小・中・高) S/W 教育の方法・技術(幼・小・中・高・養) S/W 生活論(発達障がい) (小・中・高) S/W 教育相談の理論と方法(小・中・高・養)	教育制度論 特別活動、総合的な学習の時間と方法(中学校)	教育課程総論(小・中・高・養) → 教育実習・教育専門研究へ	
	初等教育領域	教科内容論(国語) → 初等国語科教育法 教科内容論(社会) → 初等社会科教育法 教科内容論(算数) → 初等算数科教育法 教科内容論(英語) → 初等英語科教育法	教科内容論(理科) → 初等理科教育法 教科内容論(音楽) → 初等音楽科教育法 教科内容論(体育) → 初等体育科教育法 教科内容論(図画工作) S/W/V → 初等図画工作科教育法	教科内容論(家庭) → 初等家庭科教育法	初等教科教育演習へ	
	学科共通領域			教育専門演習Ⅰ → 教育専門演習Ⅱ → 教育専門研究Ⅰ → 教育専門研究Ⅱ 教育特別研究 → 卒業研究		
	コース共通領域	英語探究の扉 → 数理解探究の扉	教科探究の扉			
	特別支援教育領域	発達障害の理論と指導	子ども理解とケア 特別支援教育概論 知的障害者の心理・生理・病理	肢体不自由者の心理・生理・病理 知的障害教育論 病弱者の心理・生理・病理	肢体不自由教育論 障害児教育論 聴覚障害教育論 情緒障害教育論 → インクルーシブ教育の探究	
	幼児教育領域	日本と世界の幼児教育概説 → 子育て支援論	幼児教育課程総論 → 保育内容総論 幼児理解(教育相談を含む)	障害児教育論		
	英語教育領域	英文法Ⅰ → 英文法Ⅱ ベーシックコミュニケーションⅠ → ベーシックコミュニケーションⅡ	英文法Ⅲ ベーシックコミュニケーションⅢ	英語学概説 ベーシックコミュニケーションⅣ	英語前声学 アドバンスコミュニケーションⅠ → アドバンスコミュニケーションⅡ 英語文学概説 英語文学Ⅰ(英文学) → 英語文学Ⅱ(米文学) 英語圏文化概説 → 世界英語の文化圏Ⅰ → 世界英語の文化圏Ⅱ	
	数学教育領域	線形代数学 → 代数学Ⅰ 数学的リテラシー	代数学Ⅱ 幾何学Ⅰ	英語学概説 解析学Ⅰ → 解析学Ⅱ 確率・統計学Ⅰ → 確率・統計学Ⅱ	位相数学 微分積分学	
	子ども教育領域	世界と教育の研究 音楽表現Ⅰ → 音楽表現Ⅱ 運動基礎Ⅰ → 運動基礎Ⅱ	社会と教育の研究 科学的探究の方法	教科内容研究Ⅰ → 教科内容研究Ⅱ → 教科内容研究Ⅲ 教科総合演習Ⅰ → 教科総合演習Ⅱ	コンピュータ演習 教師としての批判的リテラシー	
	子ども理解領域	世界の子ども事情 → 多様な子どもとメディア 多様な子どもと造形表現	多様な子どもと音楽表現	子ども発達環境論		
<b>② 教員としてふさわしい豊かな人間性</b> 多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および教員としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。	教職一般領域	教育原論 S/W/V		教育実習		
	学科共通領域		教育基礎演習Ⅰ → 教育基礎演習Ⅱ インターンシップ → スクールサポーターⅠ			
	コース共通領域	パフォーマンス演習				
	数学教育領域		多文化探究の扉			
	子ども教育領域				教職演習Ⅰ → 教職演習Ⅱ 教職研究Ⅰ → 教職研究Ⅱ 教職実践演習(教職)	
<b>③ 変化する社会、学校で活躍できる力</b> 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。	教職一般領域				教職実践演習(教職)	
	学科共通領域		教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅰ) → 教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅱ)		スクールサポーターⅡ → スクールサポーターⅢ	
	コース共通領域		子どもと家族・社会	児童福祉と子どものケア		
	特別支援教育領域	発達障害と教育方法	障害特性とICTの活用	障害者指導法 教育実習指導(特支) 保育方法論 → 保育方法演習 保育内容の理解と方法(健康) → 保育内容の理解と方法(環境) 保育内容の理解と方法(人間関係) → 保育内容の理解と方法(音楽) 保育内容の理解と方法(表現活動・造形) → 保育内容の理解と方法(表現活動・造形)	障害者教育探究	
	幼児教育領域					
	英語教育領域	中等英語科教育法Ⅰ → 中等英語科教育法Ⅱ	中等英語科教育法Ⅲ → 中等英語科教育法Ⅳ	中等英語科教育法Ⅴ 教育実習指導(英語) 教育実習Ⅰ(英語) 教育実習Ⅱ(英語)		
	数学教育領域	問い直す数学 → 数学史と現代数学	子どもの発達と算数・数学	中等数学科教育法Ⅰ → 中等数学科教育法Ⅱ 中等数学科教育法Ⅲ → 中等数学科教育法Ⅳ 教育実習指導(数学) 教育実習Ⅰ(数学) 教育実習Ⅱ(数学)	数学的探究 → 問い続ける数学	
	子ども教育領域		初等国語科教育演習 → 初等英語科教育演習		インクルーシブ教育の理論と方法 教科内容探究 授業方法探究 学級経営探究 初等社会科教育演習 初等算数科教育演習 初等理科教育演習 初等生活科教育演習 初等音楽科教育演習 初等図画工作科教育演習 初等家庭科教育演習 初等体育科教育演習	教育実習指導・教育実習へ
	子ども理解領域			子ども支援の仕事	子ども企業研究	

# 教育学部 教育学科 小学校教育コース(令和4年度入学生) 履修系統図

【教育課程編成・実施の方針】(カリキュラム・ポリシー)

**【教育課程の編成、教育内容】**  
 教育学科小学校教育コースでは、小学校教員において必要な基礎的科目に加え、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、「特別支援教育」、「幼児教育」、「英語教育」、「数学教育」の4つのプログラムに関する科目を置き、各専門的知識を持った小学校教員となるようなカリキュラムを編成します。また、小学校教員の専門性をより深められるよう、応用科目を「子ども教育領域」と「子ども教育理解領域」に設けます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、学校現場での学びと連動させる科目を置きます。  
 (小学校教員として必要な基礎科目)  
 (1) 「教職一般領域」では、教員に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」、「教育心理学」、「教育課程総論(小・中・高・養)」、「教育方法・技術(情報通信技術の活用含む小・中・高養)」などの科目を配置します。  
 (2) 「初等教育領域」では、教科教育に関する基礎理論や実践論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教育法」などの科目を配置します。  
 (3) 「学科共通領域」では、学校現場と大学での学びとを関連させながら、豊かな人間性と実践力、指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「インターンシップⅠ～Ⅲ」などの科目を配置します。  
 (4) 「専修領域」では、場に応じた行動を取ることができる「開かれた身体」を作るため、1年次に「パフォーマンス演習」を配置します。その上で学校現場での学びである2年次の「インターンシップⅠ・Ⅱ」、3年次の「教育実習」につなげます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、「子どもと家族・社会」などの科目を配置します。  
 (5) 「専修領域」には、異なった視点から今までの学びを見直す「学びほくし」を行うため、「数理探究の扉」などの科目も配置します。  
 (4種の専門教育に関する科目)  
 (6) 「専修領域」には、多様な子どもと向き合うための専門的な理論と実践論等を学ぶため、「特別支援教育」「幼児教育」「英語教育」「数学教育」の4つのプログラムに応じた科目も配置します。  
 (小学校教員の専門性をより深める科目)  
 (7) 「子ども教育領域」では、これまでの学びや実践を通じた疑問や課題を解決し、学びを深めるための「教科内容探究」や各教科の「初等教育演習」などの深掘り科目のほか、「教科内容研究Ⅰ～Ⅲ」、「教科総合演習Ⅰ・Ⅱ」などの進路実現に向けた科目を配置します。  
 (8) 「子ども理解領域」では、変化する社会、学校、子どもの理解を深めるため「多様な子ども理解入門」、「子ども発達環境論」、「子ども企業研究」などの科目を配置します。

**【教育方法】**  
 (1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならず、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。また、1年次より「パフォーマンス演習」等で状況の変化に合わせて心身を動かし表現する活動を取り入れます。  
 (2) 「数理探究の扉」などでは、公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前と思っていたことは「なぜ」そうなっているのか、「なぜ」それが必要なのかを学生自身が理解を組み立て、組み取っていけるように、学生個々が多様な方法や側面から「なぜ」にアプローチできるようにします。  
 (3) 情報化の進展に対応するため、アクティブ・ラーニング教室やICT模擬授業教室、様々なICTツールの活用を図ったり、実践力の育成に向け模擬授業(ビデオによる収録も実施)を行ったりして、学修方法の改善に努めます。  
 (4) 学校での実践的な学びを推進するため、3年次の教育実習に加え、1年次の「ハロースクール」、2年次から4年次にかけて「インターンシップⅠ～Ⅲ」などを実施し、学校での教育活動に積極的に参加します。そして、「子どもと家族・社会」などでは、教育現場で経験したケースや課題を検討します。

**【学修成果の評価方法】**  
 (1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。  
 (2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。  
 (3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。  
 (4) 授業・教育実習(小・中・特別支援)・介護等の体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質・能力や適性を評価します。  
 (5) 学修ポートフォリオ(目標・自己評価、履修カルテ等)および上記(2)～(4)をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善を図ります。

身につけるべき能力	領域	1年次	2年次	3年次	4年次
① 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。	教職一般領域	特別支援教育 教職論 S/V/W 教育心理学 S/V/W	道徳教育の理論と方法(小・中・養) S/V/W 教育方法・技術(情報通信技術の活用含む小・中・高養) S/V/W 生徒指導論(進路指導を含む小・中・高) S/V/W	教育制度論 特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法(小・中・高養)	教育課程総論(小・中・高・養) 教育実習・教育専門研究へ
	初等教育領域	教科内容論(国語) 教科内容論(社会) 教科内容論(算数) 教科内容論(英語) 初等英語科教育法	教科内容論(理科) 初等理科教育法 教科内容論(生活) 初等生活科教育法 教科内容論(音楽) 初等音楽科教育法 教科内容論(体育) 初等体育科教育法 教科内容論(図画工作) S/V/W 初等図画工作科教育法	教科内容論(家庭) 初等家庭科教育法 初等生活科教育法 初等体育科教育法 初等図画工作科教育法	初等家庭科教育法 初等教科教育演習へ
	学科共通領域		教育相談の理論と方法(小・中・高・養)	教育専門演習Ⅰ 教育特別研究	教育専門演習Ⅱ 教育専門研究Ⅰ 教育専門研究Ⅱ 卒業研究
	コース共通領域	英語探究の扉 数理探究の扉	子ども理解とケア 発達障害の理論と指導	教科探究の扉 肢体不自由者の心理・生理・病理 知的障害者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理	視覚障害教育総論 聴覚障害教育総論 情報障害教育論 インクルーシブ教育の探究
	特別支援教育領域	日本と世界の幼児教育概説	子育て支援論 幼児教育課程総論 幼児理解(教育相談を含む)	保育内容総論 障害児教育論 重複・発達障害教育総論	視覚障害教育総論 聴覚障害教育総論 情報障害教育論 インクルーシブ教育の探究
	幼児教育領域	英文法Ⅰ ベーシックコミュニケーションⅠ	英文法Ⅱ ベーシックコミュニケーションⅡ	英語学概説 ベーシックコミュニケーションⅢ ベーシックコミュニケーションⅣ	英語音声学 アドバンストコミュニケーションⅠ アドバンストコミュニケーションⅡ 英語文学概説 英語文学Ⅰ(英文学) 英語文学Ⅱ(英文学) 英語圏文化概説 世界英語の文化圏Ⅰ 世界英語の文化圏Ⅱ
	英語教育領域	線形代数学 数学的リテラシー	代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ	解析学Ⅰ 幾何学Ⅱ 確率・統計学Ⅰ	代数学Ⅱ 幾何学Ⅱ 微分積分学 コンピュータ演習 教科内容研究Ⅲ 教科内容研究Ⅱ 教科総合演習Ⅱ
	数学教育領域	コンピュータ概論 世界と教育の研究 音楽表現Ⅰ 運動基礎Ⅰ	社会と教育の研究 音楽表現Ⅱ 運動基礎Ⅱ	科学的探究の方法 教科内容研究Ⅰ 教科総合演習Ⅰ	教科内容研究Ⅰ 教科総合演習Ⅱ 教科総合演習Ⅲ 教科総合演習Ⅱ 教師としての批判的リテラシー
	子ども教育領域	世界の子ども事情	多様な子どもとメディア 多様な子どもと造形表現	子ども発達環境論	
	子ども理解領域	教職一般領域	教育原論 S/V/W	教育実習	
② 多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるといつ強い意志と情熱および教員としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。	学科共通領域		教育基礎演習Ⅰ インターンシップⅠ	教育基礎演習Ⅱ インターンシップⅡ	
	コース共通領域	パフォーマンス演習	多文化探究の扉		
	数学教育領域				教職演習Ⅰ 教職演習Ⅱ 教職研究Ⅰ 教職研究Ⅱ
	子ども教育領域				
③ 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組む、実現することができる。	教職一般領域				教職実践演習(教諭)
	学科共通領域		教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅰ) 教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅱ)	インターンシップⅢ	
	コース共通領域		子どもと家族・社会	児童福祉と子どものケア	
	特別支援教育領域	発達障害と教育方法	障害特性とICTの活用	障害者指導法 教育実習指導(特攻) 保育方法論 保育内容の理解と方法(健康) 保育内容の理解と方法(環境) 保育内容の理解と方法(人間関係) 保育内容の理解と方法(言葉) 保育内容の理解と方法(表現活動・音楽) 保育内容の理解と方法(表現活動・造形)	障害者教育探究 保育方法演習
	幼児教育領域			中等英語科教育法Ⅲ 教育実習指導(英語) 教育実習Ⅰ(英語) 教育実習Ⅱ(英語)	中等英語科教育法Ⅳ 中等英語科教育法Ⅱ 中等英語科教育法Ⅰ
	英語教育領域			中等数学科教育法Ⅲ 教育実習指導(数学) 教育実習Ⅰ(数学) 教育実習Ⅱ(数学)	中等数学科教育法Ⅳ 中等数学科教育法Ⅱ 中等数学科教育法Ⅰ
	数学教育領域	問い直す数学	数学史と現代数学	子どもの発達と算数・数学	教育的探究 問い続ける数学
	子ども教育領域		初等国語科教育演習 初等英語科教育演習		インクルーシブ教育の理論と方法 教科内容探究 授業方法探究 学級経営探究 初等社会科教育演習 初等理科教育演習 初等音楽科教育演習 初等図画工作科教育演習 初等家庭科教育演習 初等体育科教育演習 教育実習指導・教育実習へ
	子ども理解領域				子ども支援の仕事 子ども企業研究

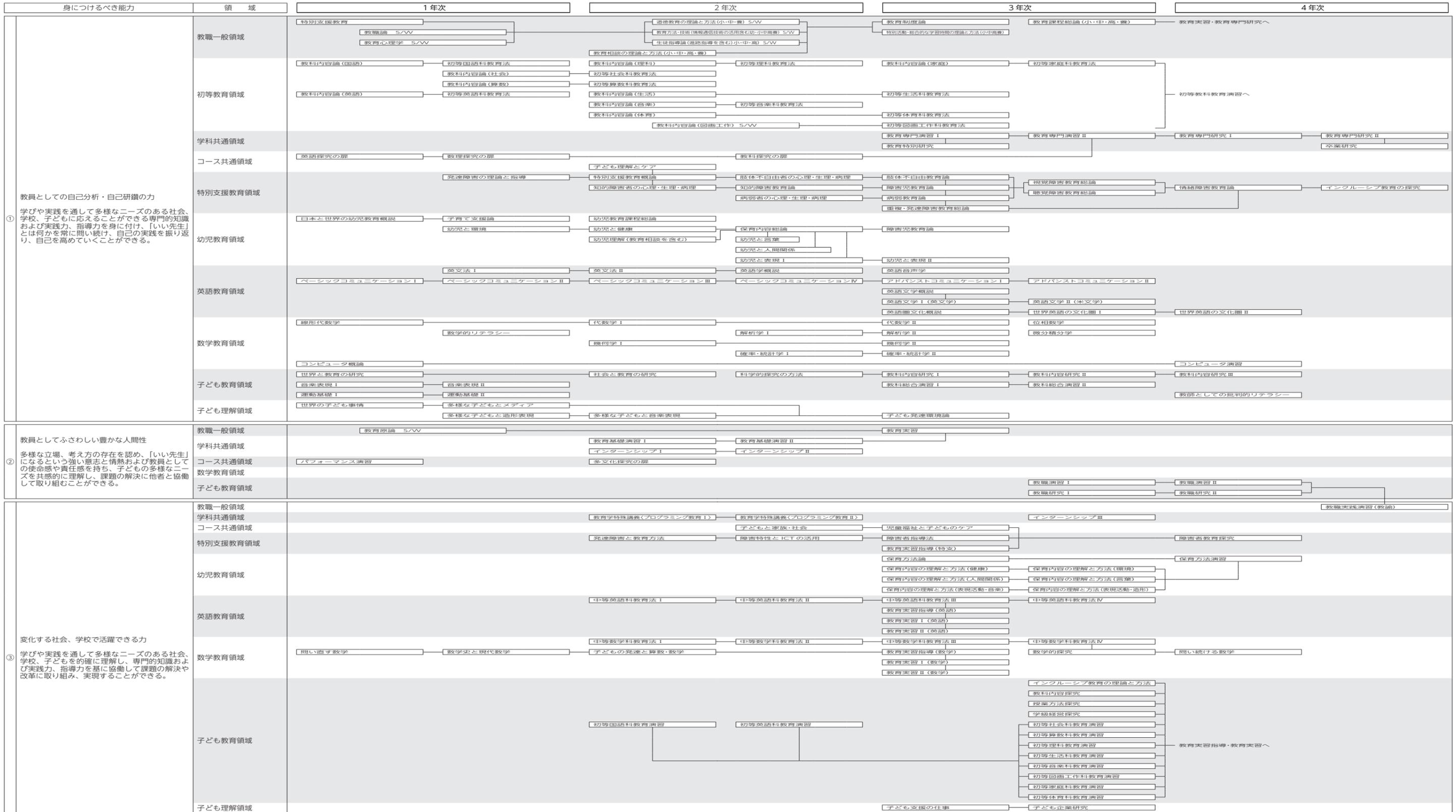
# 教育学部 教育学科 小学校教育コース（令和5年度入学生）履修系統図

【教育課程編成・実施の方針】（カリキュラム・ポリシー）

**【教育課程の編成、教育内容】**  
 教育学科小学校教育コースでは、小学校教員において必要な基礎科目に加え、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、「特別支援教育」、「幼児教育」、「英語教育」、「数学教育」の4つのプログラムに関する科目を置き、各専門的知識を持った小学校教員となるようなカリキュラムを編成します。また、小学校教員の専門性をより深められるよう、応用科目を「子ども教育領域」と「子ども教育理解領域」に設けます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、学校現場での学びと連動させる科目を置きます。  
 （小学校教員として必要な基礎科目）  
 (1) 「教職一般領域」では、教員に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」、「教育心理学」、「教育課程総論（小・中・高・養）」、「教育方法・技術（情報通信技術の活用含む小中高養）」などの科目を配置します。  
 (2) 「初等教育領域」では、教科教育に関する基礎理論や実践論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教育法」などの科目を配置します。  
 (3) 「学科共通領域」では、学校現場と大学での学びとを関連させながら、豊かな人間性と実践力、指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「インターンシップⅠ～Ⅲ」などの科目を配置します。  
 (4) 「専修領域」では、場に応じた行動を取ることができる「開かれた身体」を作るため、1年次に「パフォーマンス演習」を配置します。その上で学校現場での学びである2年次の「インターンシップⅠ・Ⅱ」、3年次の「教育実習」につなげます。そして、実践したことを振り返り、次の実践につなげるために、「子どもと家族・社会」などの科目を配置します。  
 (5) 「専修領域」には、異なった視点から今までの学びを見直す「学びほくし」を行うため、「数理探究の扉」などの科目も配置します。  
 (6) 「専修領域」には、多様な子どもと向き合うための専門的な理論と実践論等を学ぶため、「特別支援教育」「幼児教育」「英語教育」「数学教育」の4つのプログラムに応じた科目も配置します。  
 (7) 「子ども教育領域」では、これまでの学びや実践を通じた疑問や課題を解決し、学びを深めるための「教科内容探究」や各教科の「初等教育演習」などの深掘り科目のほか、「教科内容研究Ⅰ～Ⅲ」、「教科総合演習Ⅰ・Ⅱ」などの進路実現に向けた科目を配置します。  
 (8) 「子ども理解領域」では、変化する社会、学校、子どもの理解を深めるため「多様な子ども理解入門」、「子ども発達環境論」、「子ども企業研究」などの科目を配置します。

**【教育方法】**  
 (1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならず、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。また、1年次より「パフォーマンス演習」等で状況の変化に合わせて心身を動かし表現する活動を取り入れます。  
 (2) 「数理探究の扉」などでは、公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前と思っていたことは「なぜ」そうなのかわかるのか、「なぜ」それが必要なのかを学生自身が理解を組み立て、組み取っていけるように、学生個々が多様な方法や側面から「なぜ」にアプローチできるようにします。  
 (3) 情報化の進展に対応するため、アクティブ・ラーニング教室やICT模擬授業教室、様々なICTツールの活用を図ったり、実践力の育成に向け模擬授業（ビデオによる収録も実施）を行ったりして、学修方法の改善に努めます。  
 (4) 学校での実践的な学びを推進するため、3年次の教育実習に加え、1年次の「ハロースクール」、2年次から4年次にかけて「インターンシップⅠ～Ⅲ」などを実施し、学校での教育活動に積極的に参加します。そして、「子どもと家族・社会」などでは、教育現場で経験したケースや課題を検討します。

**【学修成果の評価方法】**  
 (1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。  
 (2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。  
 (3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。  
 (4) 授業・教育実習（小・中・特別支援）・介護等の体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質・能力や適性を評価します。  
 (5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記(2)～(4)をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善を図ります。



# 教育学部 教育学科 幼児教育保育コース（令和2・3年度入学生）履修系統図

## 「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

### 【教育課程の編成、教育内容】

教育学科幼児教育保育コースは、幼稚園教諭1種免許状、保育士資格、小学校教諭1種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための教育課程を編成します。幼児教育・保育の基本である遊びを通じた総合的な指導について修得するとともに、保護者と協働して子どもの発達を支援する専門性を身につけるための科目を配置します。講義科目と演習科目をともに配置し、それらを通じた学びと実習やインターンシップ等での実践場面との往還を図り、保育者として必要な専門的知識および実践力、指導力を身につけることを目指した教育課程を編成します。

- 教育・保育の本質や目的に関する科目として、「教育原論」「保育原理」「子ども学概論」「子ども家庭福祉」「保育者論」などの科目を配置します。
- 教育・保育の対象の理解に関する科目として、「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「幼児理解（教育相談を含む）」「子どもの保健」「多様な子ども理解入門」などの科目を配置します。
- 教育・保育の内容・方法・指導法に関する科目として、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「保育内容の理論と方法（健康）」「子どもと遊び」「音楽実践演習（器楽）」などの科目を配置します。
- 教育・保育現場での実践力を高める科目として、「インターンシップ」「保育インターンシップ」「教育実習」「保育実習Ⅰ～Ⅲ」などの科目を配置します。
- 小学校での教科内容や指導法に関する科目として、「教科内容論（国語）」「教科内容論（生活）」「初等算数科教育法」「初等音楽科教育法」「道德教育の理論と方法（小・中・養）」などの科目を配置します。

### 【教育方法】

- 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。
- 保育実践力の育成に向け、模擬保育室を利用した模擬保育の実施や視聴覚教材等を活用した保育実践の具体化を行い、学修方法の改善に努めます。
- 最新の教育・保育現場の情報の把握、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等での保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習」や「教育基礎演習」を中心に、本学の卒業生の現役保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。
- 幼稚園・保育所等での実践的な学びを推進するため、2～3年次の保育実習・教育実習に加え、1年次に「大学基礎演習」で「ハローナーサリー」（保育所体験）、2年次に「インターンシップ」（幼稚園でのインターンシップ）、「保育インターンシップ」（保育所等でのインターンシップ）を実施し、幼稚園・保育所等での教育・保育活動に積極的に参加します。

### 【学修成果の評価方法】

- 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。
- 授業、インターンシップ、実習等での課題活動を通して、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記(2)～(4)等をもとに、担任教員との面談（振り返り等）等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

身につけるべき能力	領域	1年次	2年次	3年次	4年次		
<p>保育者としての自己分析・自己研鑽の力</p> <p>学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身につけ、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。</p>	教職一般領域	教職論 特別支援教育	教育心理学	教育制度論 教育の方法・技術（幼・小・中・高・養）	教育課程総論（小・中・高・養） 教育相談の理論と方法（小・中・高・養）	道德教育の理論と方法（小・中・養） 生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）	特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法（小中高養）
	初等教育領域	教科内容論（生活） 教科内容論（音楽）	初等生活科教育法 初等音楽科教育法	教科内容論（国語） 教科内容論（社会） 教科内容論（算数） 教科内容論（理科） 教科内容論（図画工作） 教科内容論（家庭） 教科内容論（体育）	初等国語科教育法 初等社会科教育法 初等算数科教育法 初等理科教育法 初等図画工作科教育法 初等家庭科教育法 初等体育科教育法	初等英語科教育法	
	学科共通領域	教育学特殊講義		教育専門演習Ⅰ 教育特別研究	教育専門演習Ⅱ	教育専門研究Ⅰ 卒業研究	
	コース共通領域	音楽への扉	子ども理解とケア				
	幼児保育領域	子ども学概論 子ども家庭福祉 子どもの保健	保育原理 社会的養護Ⅰ	社会福祉 社会的養護Ⅱ 子どもの健康と安全	保育の心理学 子ども家庭支援の心理学 障害児保育	子育て支援 子ども家庭支援論 子どもの食と栄養	
		保育内容総論 子どもと遊び 音楽実践演習（声楽）	保育内容の理論と方法（環境）	保育内容の理論と方法（健康） 幼児教育課程総論	保育内容の理論と方法（人間関係） 保育内容の理論と方法（言葉） 音楽実践演習（弾き歌い）	保育内容の理論と方法（表現活動・音楽） 保育内容の理論と方法（表現活動・造形） 小児体育	
	子ども教育領域	世界と教育の研究 音楽表現Ⅰ 運動基礎Ⅰ	音楽表現Ⅱ 運動基礎Ⅱ	社会と教育の研究 社会と教育の研究 幼保小中接続研究	保育実習指導Ⅰ（施設） 保育実習Ⅰ（保育所）	教科内容研究Ⅰ 教科総合演習Ⅰ 科学的探究の方法	教科内容研究Ⅱ 教科総合演習Ⅱ 教師としての批判的リテラシー
	子ども理解領域	多様な子どもとメディア 世界の子どもの事情	多様な子どもと造形表現 多様な子どもと音楽表現	多様な子どもと音楽表現	保育実習指導Ⅱ（施設） 保育実習Ⅱ（保育所）	子ども発達環境論	現代の子ども・若者論 多様な子どもとICT論（プログラミングを含む） 病児教育論
				教育学特殊講義（児童英語教育実践研究Ⅰ） 教育学特殊講義（児童英語教育実践研究Ⅱ） 教育学特殊講義（教職数学演習）			
	<p>保育者としてふさわしい豊かな人間性</p> <p>多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。</p>	教職一般領域	教育原論		教育実習指導 教育実習		
学科共通領域			教育基礎演習Ⅰ インターンシップ	教育基礎演習Ⅱ スクールサポーターⅠ			
コース共通領域		パフォーマンス演習					
幼児保育領域		保育者論	保育インターンシップ				
子ども教育領域					教職演習Ⅰ 教職研究Ⅰ	教職演習Ⅱ 教職研究Ⅱ	
子ども理解領域	多様な子ども理解入門						
<p>変化する社会、保育施設等で活躍できる力</p> <p>学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。</p>	教職一般領域				教職実践演習（教諭）		
	学科共通領域			スクールサポーターⅡ スクールサポーターⅢ			
	コース共通領域		子どもと家族・社会	児童福祉と子どものケア			
	幼児保育領域			保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習指導Ⅲ（施設）	保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設）	フィールドワーク演習（子ども支援） フィールドワーク演習（子育て支援）	保育実践演習
	子ども教育領域			初等国語科教育演習 初等社会科教育演習 初等理科教育演習 初等音楽科教育演習 初等家庭科教育演習	初等英語科教育演習 初等算数科教育演習 初等生活科教育演習 初等図画工作科教育演習 初等体育科教育演習		
				インクルーシブ教育の理論と方法 授業方法探究	教科内容探究 学級経営探究		
	子ども理解領域		子ども支援ボランティア論 教育学特殊講義（プログラミング教育Ⅰ）	子ども支援の仕事 教育学特殊講義（プログラミング教育Ⅱ）	子ども企業研究	子どもサービス演習	

# 教育学部 教育学科 幼児教育保育コース(令和4年度入学生) 履修系統図

## 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

### 【教育課程の編成、教育内容】

教育学科幼児教育保育コースは、幼稚園教諭1種免許状、保育士資格、小学校教諭1種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための教育課程を編成します。幼児教育・保育の基本である遊びを通じた総合的な指導について修得するとともに、保護者と協働して子どもの発達を支援する専門性を身につけるための科目を配置します。講義科目と演習科目をともに配置し、それらを通じた学びと実習やインターンシップ等での実践場面との往還を図り、保育者として必要な専門的知識および実践力、指導力を身につけることを目指した教育課程を編成します。

- 教育・保育の本質や目的に関する科目として、「教育原論」「保育原理」「子ども学概論」「子ども家庭福祉」「保育者論」などの科目を配置します。
- 教育・保育の対象の理解に関する科目として、「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「幼児理解(教育相談を含む)」「子どもの保健」「多様な子ども理解入門」などの科目を配置します。
- 教育・保育の内容・方法・指導法に関する科目として、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「保育内容の理論と方法(健康)」「子どもと遊び」「音楽実践演習(器楽)」などの科目を配置します。
- 教育・保育現場での実践力を高める科目として、「インターンシップⅠ～Ⅲ」「保育インターンシップ」「教育実習」「保育実習Ⅰ～Ⅲ」などの科目を配置します。
- 小学校での教科内容や指導法に関する科目として、「教科内容論(国語)」「教科内容論(生活)」「初等算数科教育法」「初等音楽科教育法」「道德教育の理論と方法(小・中・養)」などの科目を配置します。

### 【教育方法】

- 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。
- 保育実践力の育成に向け、模擬保育室を利用した模擬保育の実施や視聴覚教材等を活用した保育実践の具体化を行い、学修方法の改善に努めます。
- 最新の教育・保育現場の情報の把握、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等での保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習」や「教育基礎演習」を中心に、本学の卒業生の現役保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。
- 幼稚園・保育所等での実践的な学びを推進するため、2～3年次の保育実習・教育実習に加え、1年次に「大学基礎演習」で「ハローナーサリー」(保育所体験)、2年次に「インターンシップ」(幼稚園でのインターンシップ)、「保育インターンシップ」(保育所等でのインターンシップ)を実施し、幼稚園・保育所等での教育・保育活動に積極的に参加します。

### 【学修成果の評価方法】

- 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。
- 授業、インターンシップ、実習等での課題活動を通して、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 学修ポートフォリオ(目標・自己評価、履修カルテ等)および上記(2)～(4)等をもとに、担任教員との面談(振り返り等)等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

身につけるべき能力		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
① 保育者としての自己分析・自己研鑽の力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもに伝えることができる専門的知識および実践力、指導力を身につけ、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。	教職一般領域	教職論	教育心理学			教育制度論	教育課程総論(小・中・高・養)	道德教育の理論と方法(小・中・養)	特別活動・総合的な学習時間の理論と方法(小中高養)
		特別支援教育				教育方法・技術(情報通信技術の活用含む小中高養)	教育相談の理論と方法(小・中・高・養)	生徒指導論(進路指導を含む)(小・中・高)	
	初等教育領域	教科内容論(生活)	初等生活科教育法						
		教科内容論(音楽)	初等音楽科教育法						
			教科内容論(国語)	初等国語科教育法			教科内容論(英語)	初等英語科教育法	
			教科内容論(社会)				初等社会科教育法		
			教科内容論(算数)				初等算数科教育法		
			教科内容論(理科)				初等理科教育法		
			教科内容論(図画工作)				初等図画工作科教育法		
			教科内容論(家庭)				初等家庭科教育法		
		教科内容論(体育)				初等体育科教育法			
学科共通領域	教育学特殊講義					教育専門演習Ⅰ	教育専門演習Ⅱ	教育専門研究Ⅰ	教育専門研究Ⅱ
						教育特別研究			卒業研究
コース共通領域	音楽への扉		子ども理解とケア						
幼児保育領域	子ども学概論	保育原理	社会福祉	保育の心理学	子育て支援				
	子ども家庭福祉	社会的養護Ⅰ	社会的養護Ⅱ	子ども家庭支援の心理学	子ども家庭支援論				
	子どもの保健		子どもの健康と安全	障害児保育	子どもの食と栄養				
			幼児教育課程総論	幼児理解(教育相談を含む)	保育方法論				
	保育内容総論	保育内容の理論と方法(環境)	保育内容の理論と方法(健康)	保育内容の理論と方法(人間関係)	保育内容の理論と方法(表現活動・音楽)				
	子どもと遊び			保育内容の理論と方法(言葉)	保育内容の理論と方法(表現活動・造形)				
	音楽実践演習(声楽)		音楽実践演習(器楽)	音楽実践演習(弾き歌い)	小児体育				
			子どもと造形表現						
			乳児保育Ⅰ	乳児保育Ⅱ					
			保育実習指導Ⅰ(保育所)	保育実習Ⅰ(保育所)	保育実習指導Ⅰ(施設)	保育実習Ⅰ(施設)			
子ども教育領域	世界と教育の研究		社会と教育の研究	幼保小中接続研究	教科内容研究Ⅰ	教科内容研究Ⅱ	教科内容研究Ⅲ		
	音楽表現Ⅰ	音楽表現Ⅱ			教科総合演習Ⅰ	教科総合演習Ⅱ	教師としての批判的リテラシー		
	運動基礎Ⅰ	運動基礎Ⅱ			科学的探究の方法				
	多様な子どもとメディア	多様な子どもと造形表現	多様な子どもと音楽表現		子ども発達環境論			現代の子ども・若者論	病児教育論
	世界の子どもの事情							多様な子どもとICT(プログラミングを含む)	
			教育学特殊講義(児童英語教育実践研究Ⅰ)	教育学特殊講義(児童英語教育実践研究Ⅱ)					
			教育学特殊講義(教職数学演習)						
② 保育者としてふさわしい豊かな人間性 多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」になるという強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。	教職一般領域	教育原論				教育実習指導	教育実習		
	学科共通領域		教育基礎演習Ⅰ	教育基礎演習Ⅱ					
			インターンシップⅠ	インターンシップⅡ					
	コース共通領域	パフォーマンス演習				教職演習Ⅰ	教職演習Ⅱ		
	幼児保育領域	保育者論		保育インターンシップ		教職研究Ⅰ	教職研究Ⅱ		
子ども教育領域									
子ども理解領域	多様な子ども理解入門								
③ 変化する社会、保育施設等で活躍できる力 学びや実践を通して多様なニーズのある社会、保育施設等、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。	教職一般領域							教育実践演習(教諭)	
	学科共通領域					インターンシップⅢ			
	コース共通領域		子どもと家族・社会			児童福祉と子どものケア			
	幼児保育領域				保育実習指導Ⅱ(保育所)	保育実習Ⅱ(保育所)	フィールドワーク演習(子ども支援)	保育実践演習	
					保育実習指導Ⅲ(施設)	保育実習Ⅲ(施設)	フィールドワーク演習(子育て支援)		
					初等国語科教育演習	初等英語科教育演習			
					初等社会科教育演習	初等算数科教育演習			
					初等理科教育演習	初等生活科教育演習			
					初等音楽科教育演習	初等図画工作科教育演習			
					初等家庭科教育演習	初等体育科教育演習			
子ども教育領域				インクルーシブ教育の理論と方法	教科内容探究				
				授業方法探究	学級経営探究				
子ども理解領域		子ども支援ボランティア論			子ども支援の仕事	子ども企業研究	子どもサービス演習		
		教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅰ)	教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅱ)						



# 教育学部 教育学科 英語教育・小学校コース(令和3年度入学生)／中高英語教育コース(令和2年度入学生) 履修系統図

## 【教育課程編成・実施の方針】(カリキュラム・ポリシー)

### 【教育課程の編成、教育内容】

教育学科英語教育・小学校コース(令和3年度以降入学生)、中高英語教育コース(令和2年度以前入学生)の教育課程は、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「専門教育科目」の三つの科目群を柱として構成します。英語教育の重要性がますます高まる中、中学校・高等学校における英語教育を担当するのに十分な英語力・指導力を備えた教員を養成します。

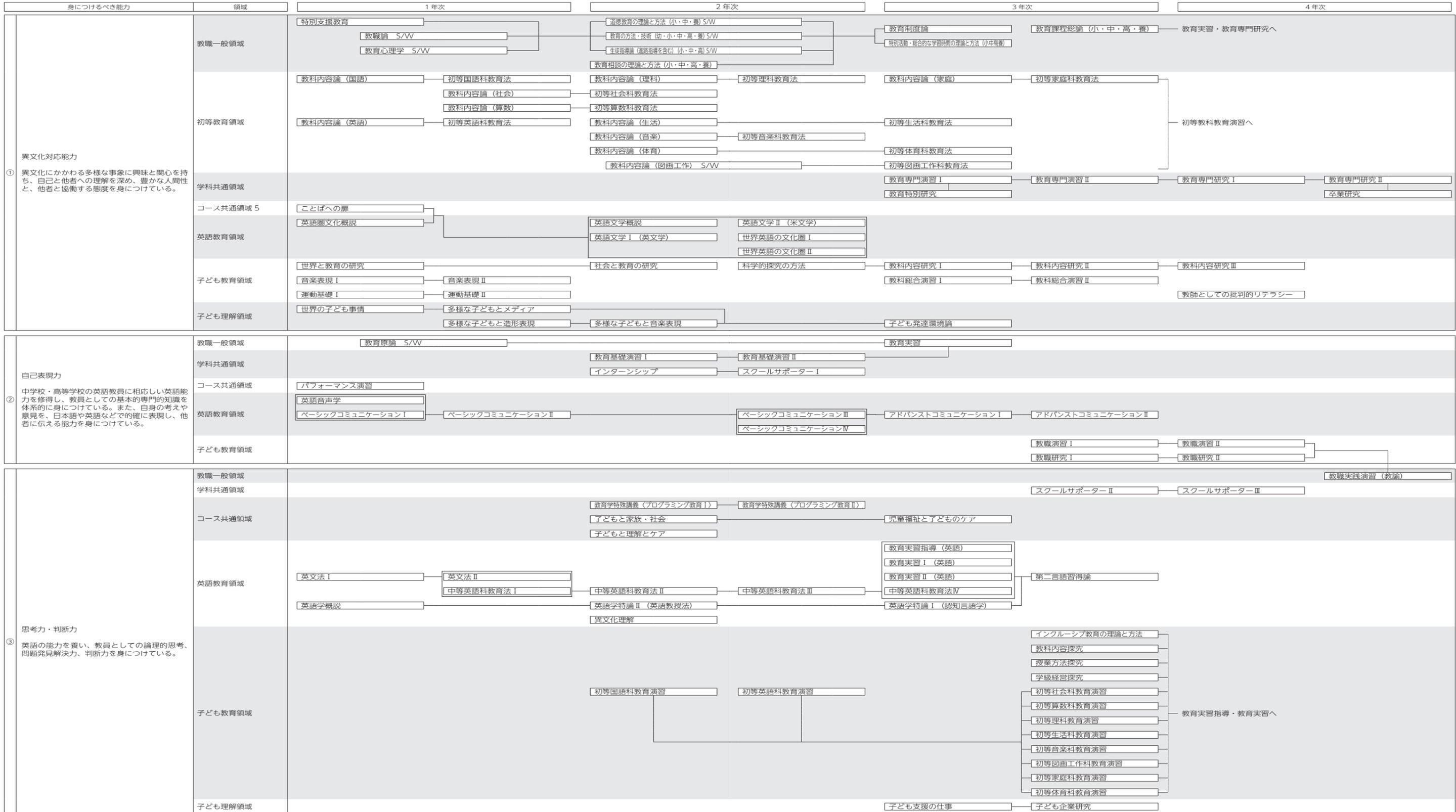
- 1年次は、専門知識を修得するとともに、幅広い教養を身につけ、教職への関心を高め、意欲の向上を図ります。同時に、教育者として必要なコミュニケーション能力や表現力を養います。「ことばへの扉」、「英語学概説」、「英語音声学」、「英文法Ⅰ・Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅰ」、「ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「英語圏文化概説」などを開講しています。
- 2年次は、1年次での学びを深め、広げていくと共に、十分な英語力・指導力を備えた教員を目指し、より実践的な科目を履修します。「英語学概説」、「英語文学Ⅰ・Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅱ・Ⅲ」、「英語学特論Ⅱ(英語教授法)」、「ベーシックコミュニケーションⅢ・Ⅳ」、「世界英語の文化圏Ⅰ・Ⅱ」などを開講します。
- 3年次は、2年間の学びを基礎にさらなる充実を図り、教育現場での英語教諭の職務と役割を理解し、総合的な教育力・使命感・責任感を身につけます。「第二言語習得論」、「英語学特論Ⅰ(認知言語学)」、「中等英語科教育法Ⅳ」、「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「アドバンスコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「教育実習指導(英語)」、「教育実習Ⅰ・Ⅱ(英語)」などを開講します。
- 4年次は、大学生活の集大成として、これまでに学んだ知識と教育実習で修得した教科指導力を統合し、使命感や責任感、学識と技能、実践的な指導力を有する英語教諭としての資質の構築とその確認を行います。「教職実践演習(教諭)」、「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」などを開講しています。

### 【教育方法】

- 講義および演習では、教員の講義だけでなく、学生による発表やディスカッション、グループワーク等のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた双方向的授業を展開しています。
- 少人数制を活かし、数多くの模擬授業を学生に体験させています。模擬授業では一般教室に加えICT教室も利用し、電子黒板やタブレット等のICTを活用した効果的な学修方法を教員と学生がともに模索しています。
- インターネットを利用した授業支援システム(IBU.net)を導入し、授業時間外での課題の提示や双方向の議論を可能にしています。
- 最近の教育現場の状況を把握し英語教諭の役割を理解するために、本学の卒業生や現役の教諭を招聘し、講演会やセミナーを実施しています。
- 教育実習に加え、学校インターシップ、地域の学校ボランティア活動を通して、授業方法の他に諸活動や学校運営について学び、教育の実践力を高めます。

### 【学修成果の評価方法】

- 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 知識の理解を確認する定期試験および授業内小テストや課題レポート、ならびに授業への参加態度や意欲、学生による授業評価などにより、各科目がシラバスに明示した目標への到達度を総合的に評価します。
- 評価観点とレベルを示したルーブリックなどを用いて、自己評価と他者による評価をもとに、学修成果を客観的に把握します。
- 講義(重要事項の知識の修得)・教育実習(小・中・高)・介護等の体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質能力が身につけているかを振り返る自己評価シート(履修カルテ)を定期的に点検し、教育者としての適性を評価します。
- 「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」において、学生自らが課題を見つけ、「卒業研究」として発表し、教員がその研究の課程と成果を評価します。



# 教育学部 教育学科 英語教育・小学校コース（令和4・5年度入学生）履修系統図

## 【教育課程編成・実施の方針】（カリキュラム・ポリシー）

### 【教育課程の編成、教育内容】

教育学科英語教育・小学校コースの教育課程は、「基礎教育科目」、「共通教育科目」、「専門教育科目」の三つの科目群を柱として構成します。英語教育の重要性がますます高まる中、中学校・高等学校における英語教育を担当するのに十分な英語力・指導力を備えた教員を養成します。

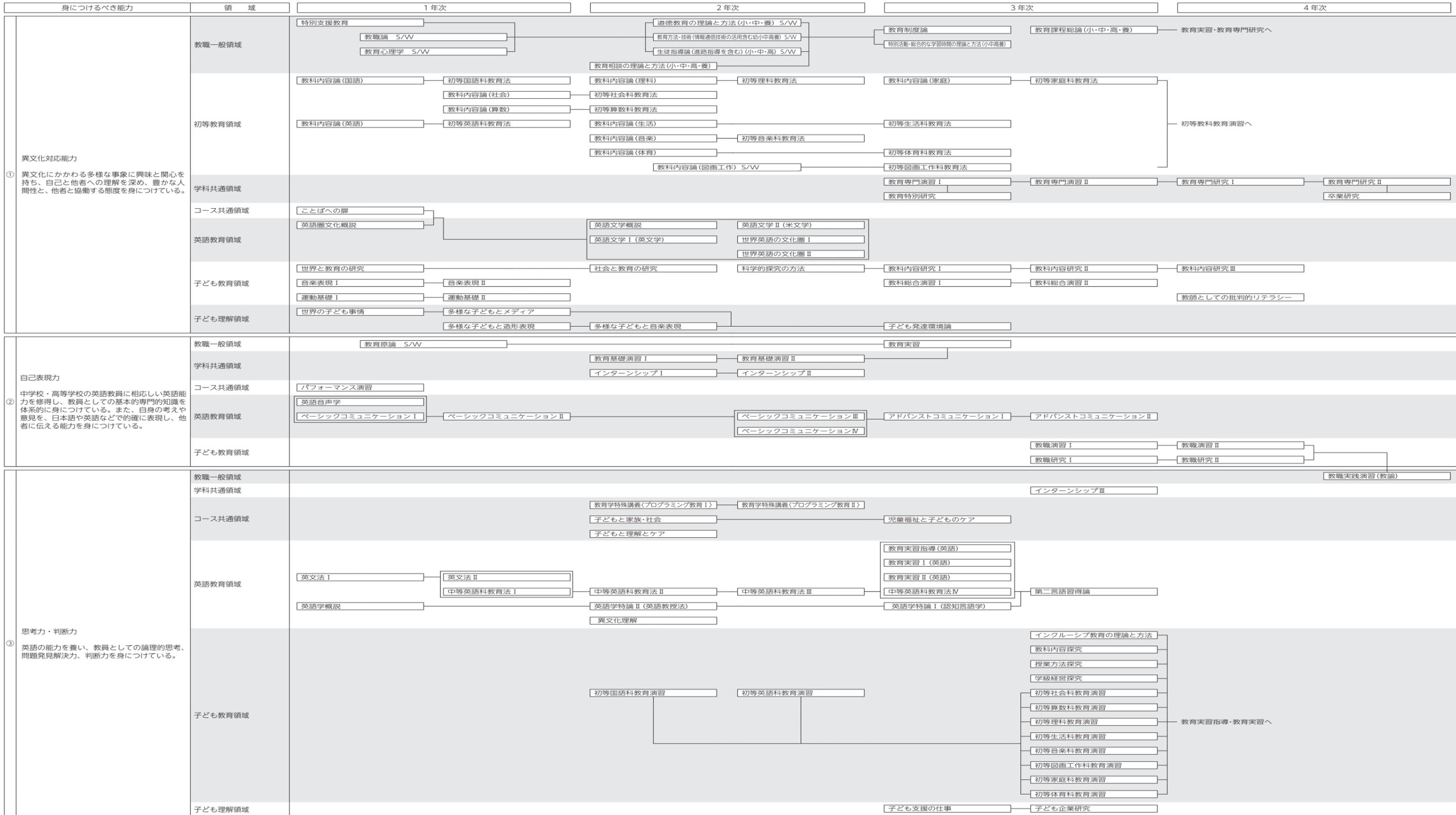
- 1年次は、専門知識を修得するとともに、幅広い教養を身につけ、教職への関心を高め、意欲の向上を図ります。同時に、教育者として必要なコミュニケーション能力や表現力を養います。「ことばへの扉」、「英語学概説」、「英語音声学」、「英文法Ⅰ・Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅰ」、「ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「英語圏文化概説」などを開講しています。
- 2年次は、1年次での学びを深め、広げていくと共に、十分な英語力・指導力を備えた教員を目指し、より実践的な科目を履修します。「英語学概説」、「英語文学Ⅰ・Ⅱ」、「中等英語科教育法Ⅱ・Ⅲ」、「英語学特論Ⅱ（英語教授法）」、「ベーシックコミュニケーションⅢ・Ⅳ」、「世界英語の文化圏Ⅰ・Ⅱ」などを開講します。
- 3年次は、2年間の学びを基礎にさらなる充実を図り、教育現場での英語教諭の職務と役割を理解し、総合的な教育力・使命感・責任感を身につけます。「第二言語習得論」、「英語学特論Ⅰ（認知言語学）」、「中等英語科教育法Ⅳ」、「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「アドバンストコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「教育実習指導（英語）」、「教育実習Ⅰ・Ⅱ（英語）」などを開講します。
- 4年次は、大学生活の集大成として、これまでに学んだ知識と教育実習で修得した教科指導力を統合し、使命感や責任感、学識と技能、実践的な指導力を有する英語教諭としての資質の構築とその確認を行います。「教職実践演習（教諭）」「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」などを開講しています。

### 【教育方法】

- 講義および演習では、教員の講義だけでなく、学生による発表やディスカッション、グループワーク等のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた双方向的授業を展開しています。
- 少人数制を活かし、数多くの模擬授業を学生に体験させています。模擬授業では一般教室に加え ICT 教室も利用し、電子黒板やタブレット等の ICT を活用した効果的な学修方法を教員と学生がともに模索しています。
- インターネットを利用した授業支援システム（IBU.net）を導入し、授業時間外での課題の提示や双方向的議論を可能にしています。
- 最近の教育現場の状況を把握し英語教諭の役割を理解するために、大学の卒業生や現役の教諭を招聘し、講演会やセミナーを実施しています。
- 教育実習に加え、学校インターシップ、地域の学校ボランティア活動を通して、授業方法の他に諸活動や学校運営について学び、教育の実践力を高めます。

### 【学修成果の評価方法】

- 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 知識の理解を確認する定期試験および授業内小テストや課題レポート、ならびに授業への参加態度や意欲、学生による授業評価などにより、各科目がシラバスに明示した目標への到達度を総合的に評価します。
- 評価観点とレベルを示したルーブリックなどを用いて、自己評価と他者による評価をもとに、学修成果を客観的に把握します。
- 講義（重要事項の知識の修得）・教育実習（小・中・高）・介護等の体験などの課題活動を通して、教員として必要な資質能力が身についているかを振り返る自己評価シート（履修カルテ）を定期的に点検し、教育者としての適性を評価します。
- 「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」において、学生自らが課題を見つけ、「卒業研究」として発表し、教員がその研究の課程と成果を評価します。



# 教育学部 教育学科 保健教育コース（令和2・3年度入学生）履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

**【教育課程の編成、教育内容】**  
 教育学科保健教育コースの教育課程は、「基礎教育科目」、「共通教育科目」および「専門教育科目」から成り、時代の要請に応える実践的且つ専門性の高い優れた養護教諭を養成するため、理論（大学における講義・演習での学び）と実践（学校・医療機関を始めとする臨床実習での学び）の両方を図り、教養の豊かさと専門の深さとを兼ね備えた内容とします。また、4年間で、養護教諭免許状、小学校教諭免許状が取得できるよう、充実した教育内容・カリキュラムを編成します。さらに、教員以外の就職を望む学生には、2年次よりキャリア関連科目の履修が可能となり、企業インターンシップへの参加、キャリア相談会等、一般就職への支援も強化します。保健教育コースで配置する専門教育科目の主な内容は下記の通りです。  
 (1) 教育職員としての養護教諭の基本理論 養護教諭の歴史と制度、養護教諭の専門性と基本的責務、保健室の機能とその果たす役割を学ぶため、「保健室への扉」と「養護概説」を配置します。また、子どもの健全な発達を促す学校保健および学校安全の意義と制度、学校保健活動や学校安全活動の実際について理解するため、「学校保健」を配置します。  
 (2) 発達過程にある子どもの理解 からだのしくみ、発達過程における各期の発達の特徴や病的変化、病態の特徴および治療法を学ぶため、「解剖生理学」、「学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）」、「学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）」、「微生物学」、「薬理概論」を配置します。また、特別な支援を必要とする子どもとその発達過程についての専門的知識と技能を修得するため、「学校看護学Ⅰ（基礎）」と「精神保健」を配置します。  
 (3) 発達観・健康観の育成と養護実践を進める方法 子どもの発達と健康にかかわる生活習慣や環境、発達と健康の評価方法、養護実践を支える社会資源について理解を深めるため、「栄養学（食品学を含む）」、「衛生学」、「公衆衛生学（予防医学を含む）」を配置します。  
 (4) 養護実践の内容と方法 学習期・思春期に発生する傷病の特性とその適切な対処法等、養護実践を行うために必要な知識・技術・方法を修得し、統合化を図る能力を養い、養護教諭の専門性を一層高めるため、「学校救急処置」、「健康相談」、「学校看護学Ⅳ（応用）」を配置します。  
 (5) 臨床における実地研究 学校教育の場で子どもと直接かかわり、養護実践について学び、必要な技術・態度を修得するため、「インターンシップ」、「スクールサポーターⅠ～Ⅲ」、「養護実習」、「臨床看護学演習」等、種々の実習・演習を設けます。また、これらの臨床実習を通じ、医療機関における機能と役割、学校と医療機関との連携についても理解を深めます。さらに、大学で学んだ理論を臨床で実証し研究するとともに、研究して得られた成果を一般化する実践と研究の相互関連を学び、教育専門職としての自覚を深め、能力向上を図ります。

**【教育方法】**  
 (1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。  
 (2) 定期的に保健教育の模擬授業実践演習を実施しており、一般教室およびICT教室での授業実践とビデオによる収録を通じ、振り返りを常に行いながら、授業技術と指導力の向上を目指します。  
 (3) 養護教諭の実践技術力向上のため、少人数クラスでの、救急処置法と学校看護技術、健康相談と保健指導に必要なカウンセリング的技術等の実技指導を行います。  
 (4) 実際の保健室の状況を把握し、養護教諭の役割をより深く理解するため、本学卒業生で現役養護教諭を招聘し、講演会やセミナーを開催します。  
 (5) 臨床実習に加え、インターンシップ、スクールサポーター、保健室ボランティア活動では、一定期間連続して学校に出向き、学校の諸活動や子どもの現状、保健室運営等について学びます。また、高大連携校での保健指導と健康診断の補助を行い、養護教諭の実践教育力を高めます。

**【学修成果の評価方法】**  
 (1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。  
 (2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価、出欠の状況等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。  
 (3) 保健教育に関わる授業実践、救急処置等の養護教諭に求められる看護技術、各種演習において、評価観点とレベルを示したルーブリックを用いて、学修や課題追求、考察の過程をパフォーマンス評価し、学修成果を客観的に把握します。  
 (4) 講義・養護実習・教育実習（小学校）・介護等の体験等の課外活動を通して、教員として必要な資質・能力や適性を評価します。  
 (5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記(2)～(4)等をもとに、担任教員との面談（振り返り等）等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

身につけるべき能力	領域	1年次	2年次	3年次	4年次	
養護教諭としての自己分析・自己研鑽の力  養護教諭としての学修課題を受け止め、学びの意義を見出し、専門的知識と技能、養護実践力・指導力を身に付け、自己の教育理念と教育実践を相対化し、省察することができる。	教職一般領域	教職論 特別支援教育	教育心理学 教育相談の理論と方法(小・中・高・養) 道徳教育の理論と方法(小・中・養) 教科内容論(生活) 教科内容論(音楽)	教育の方法・技術(幼・小・中・高・養) 生徒指導論(進路指導を含む)(小・中・高) 初等生活科教育法 初等音楽科教育法	教育制度論 特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法(小中高養)	教育課程総論(小・中・高・養)
	初等教育領域	教科内容論(英語) 教科内容論(国語)	初等英語科教育法 初等国語科教育法 教科内容論(社会) 教科内容論(算数)	初等社会科教育法 初等算数科教育法 教科内容論(理科) 教科内容論(図画工作)	初等図画工作科教育法 教科内容論(家庭) 初等体育科教育法	初等家庭科教育法
	学科共通領域	教育学特殊講義〈初歩からの数学〉	教育学特殊講義〈児童英語教育実践研究Ⅰ〉 教育学特殊講義〈教職数学演習〉	教育学特殊講義〈児童英語教育実践研究Ⅱ〉	教育専門演習Ⅰ 教育特別研究	教育専門研究Ⅰ 教育専門研究Ⅱ 卒業研究
	コース共通領域	保健室への扉	子ども理解とケア			
	保健教育領域(養護教育)	学校保健 解剖生理学 栄養学	衛生学 学校看護学Ⅱ(疾病Ⅰ) 学校看護学Ⅰ(基礎)	公衆衛生学 学校看護学Ⅲ(疾病Ⅱ) 学校救急処理 生徒指導論(養護教諭)	微生物学 薬理学概論	保健統計学
	子ども教育領域	世界と教育の研究 音楽表現Ⅰ 運動基礎Ⅰ	音楽表現Ⅱ 運動基礎Ⅱ	社会と教育の研究 幼児小中接続研究	教科内容研究Ⅰ 教科総合演習Ⅰ 科学的探究の方法	教科内容研究Ⅱ 教科総合演習Ⅱ 教師としての批判的リテラシー
	子ども理解領域	多様な子どもとメディア 世界の子どもの事情	多様な子どもと造形表現 多様な子どもと音楽表現	多様な子どもと音楽表現	子ども発達環境論	現代の子ども・若者論 病児教育論 多様な子どもとICT論(プログラミングを含む)
	養護教諭としてふさわしい豊かな人間性  子どもの健やかな心と体を育みいのちを護る養護教諭としての熟慮や責任感を持ち、子どもが発するサインに気づき、迅速かつ的確に対処することができる。また、慈愛の心を持ち、子どもに寄り添い、多様なニーズを共感的に理解し、寛容な態度で子どもと接することができる。	教職一般領域	教育原論		教育実習指導 養護実習指導	教育実習 養護実習
		初等教育領域		教育基礎演習Ⅰ インターンシップ	教育基礎演習Ⅱ スクールサポーターⅠ	
		コース共通領域	パフォーマンス演習			
保健教育領域(養護教育)		養護概説	精神保健 学校看護学Ⅳ			
子ども教育領域				教職演習Ⅰ 教職研究Ⅰ	教職演習Ⅱ 教職研究Ⅱ	
子ども理解領域	多様な子ども理解入門					
変化する社会、学校園で活躍できる力  養護教諭の職責と社会が求める役割を理解し、チーム学校の一員として、他の職員と連携し、子どもの抱える多様な健康課題の解決に取り組み、実現することができる。また、地域の医療機関や関連機関の機能を理解し、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。	教職一般領域				教職実践演習(養護教諭) 教職実践演習(教諭)	
	初等教育領域					
	学科共通領域		教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅰ) 子どもと家族・社会	教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅱ)	スクールサポーターⅡ 児童福祉と子どものケア	スクールサポーターⅢ
	コース共通領域					
	保健教育領域(養護教育)			健康相談 臨床看護学演習		
	子ども教育領域		初等国語科教育演習 初等英語科教育演習		初等社会科教育演習 初等算数科教育演習 初等理科教育演習 初等生活科教育演習 初等音楽科教育演習 初等図画工作科教育演習 初等家庭科教育演習 初等体育科教育演習	
	子ども理解領域		子ども支援ボランティア論	授業方法探究 子ども支援の仕事	学級経営探究 子ども企業研究	子どもサービス演習
					インクルーシブ教育の理論と方法 教科内容探究	

# 教育学部 教育学科 保健教育コース（令和4・5年度入学生）履修系統図

## 「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

**【教育課程の編成、教育内容】**  
 教育学科保健教育コースの教育課程は、「基礎教育科目」、「共通教育科目」および「専門教育科目」から成り、時代の要請に応える実践的かつ専門性の高い優れた養護教諭を養成するため、理論（大学における講義・演習での学び）と実践（学校・医療機関を始めとする臨地実習での学び）の往還を図り、教養の豊かさや専門の深さを兼ね備えた内容とします。また、4年間で、養護教諭免許状、小学校教諭免許状が取得できるよう、充実した教育内容・カリキュラムを編成します。さらに、教員以外の就職を望む学生には、2年次よりキャリア関連科目の履修が可能となり、企業インターンシップへの参加、キャリア相談会等、一般就職への支援も強化します。保健教育コースで配置する専門教育科目の主な内容は下記の通りです。

- 教育職員としての養護教諭の基本原則 養護教諭の歴史と制度、養護教諭の専門性と基本的責務、保健室の機能とその果たす役割を学ぶため、「保健室への扉」と「養護概説」を配置します。また、子どもの健全な発達を促す学校保健および学校安全の意義と制度、学校保健活動や学校安全活動の実態について理解するため、「学校保健」を配置します。
- 発達過程にある子どもの理解 からだのしくみ、発達過程における各期の発達の特徴や病的变化、病態の特徴および治療法を学ぶため、「解剖生理学」、「学校看護学Ⅱ（疾病Ⅰ）」、「学校看護学Ⅲ（疾病Ⅱ）」、「微生物学」、「薬理概論」を配置します。また、特別な支援を必要とする子どもとその発達過程についての専門的知識と技能を修得するため、「学校看護学Ⅰ（基礎）」と「精神保健」を配置します。
- 発達観・健康観の育成と養護実践を進める方法 子どもの発達と健康にかかわる生活習慣や環境、発達と健康の評価方法、養護実践を支える社会資源について理解を深めるため、「栄養学（食品学を含む）」、「衛生学」、「公衆衛生学（予防医学を含む）」を配置します。
- 養護実践の内容と方法 学童期・思春期に発生する傷病の特性とその適切な対処法等、養護実践を行うために必要な知識・技術・方法を修得し、統合化を図る能力を養い、養護教諭の専門性を一層高めるため、「学校救急処置」、「健康相談」、「学校看護学Ⅳ（応用）」を配置します。
- 臨地における実地研究 学校教育の場で子どもと直接かわり、養護実践について学び、必要な技術・態度を修得するため、「インターンシップⅠ～Ⅲ」、「養護実習」、「臨床看護学演習」等、種々の実習・演習を設けます。また、これらの臨地実習を通し、医療機関における機能と役割、学校と医療機関との連携についても理解を深めます。さらに、大学で学んだ理論を臨地で実証し研究するとともに、研究して得られた成果を一般化する実践と研究の相互関連を学び、教育専門職としての自覚を深め、能力向上を図ります。

**【教育方法】**  
 (1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。  
 (2) 定期的に保健教育の模擬授業実践演習を実施しており、一般教室およびICT教室での授業実践とビデオによる収録を通し、振り返りを常にに行いながら、授業技術と指導力の向上を目指します。  
 (3) 養護教諭の実践技術力向上のため、少人数クラスでの、救急処置法と学校看護技術、健康相談と保健指導に必要なカウンセリング的技能等の実技指導を行います。  
 (4) 実際の保健室の状況を把握し、養護教諭の役割をより深く理解するため、本学卒業生で現役養護教諭を招聘し、講演会やセミナーを開催します。  
 (5) 臨地実習に加え、インターンシップ、保健室ボランティア活動では、一定期間連続して学校に出向き、学校の諸活動や子どもの現状、保健室運営等について学びます。また、高大連携校での保健指導と健康診断の補助を行い、養護教諭の実践教育力を高めます。

**【学修成果の評価方法】**  
 (1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。  
 (2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価、出欠の状況等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。  
 (3) 保健教育に関わる授業実践、救急処置等の養護教諭に求められる看護技術、各種演習において、評価観点とレベルを示したルーブリックを用いて、学修や課題追求、考察の過程をパフォーマンス評価し、学修成果を客観的に把握します。  
 (4) 講義・養護実習・教育実習（小学校）・介護等の体験等の課外活動を通して、教員として必要な資質・能力や適性を評価します。  
 (5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記(2)～(4)等をもとに、担任教員との面談（振り返り等）等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

身につけるべき能力	領域	1年次	2年次	3年次	4年次		
養護教諭としての自己分析・自己研鑽の力 養護教諭としての学修課題を受け止め、学びの意義を見出し、専門的知識と技能、養護実践力・指導力を身につけ、自己の教育理念と教育実践を相対化し、省察することができる。	教職一般領域	教職論 特別支援教育	教育心理学 教育相談の理論と方法(小・中・高・養) 道徳教育の理論と方法(小・中・養) 教科内容論(生活) 教科内容論(音楽)	教育方法・技術(情報通信技術の活用含む小中高養) 生徒指導論(進路指導を含む)(小・中・高)	教育制度論 特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法(小中高養)	教育課程総論(小・中・高・養)	
	初等教育領域	教科内容論(英語) → 初等英語科教育法 教科内容論(国語) → 初等国語科教育法 教科内容論(社会) → 初等社会科教育法 教科内容論(算数) → 初等算数科教育法 教科内容論(理科) → 初等理科教育法 教科内容論(図画工作) → 初等図画工作科教育法	初等生活科教育法 初等音楽科教育法	初等図画工作科教育法	教科内容論(家庭) → 初等家庭科教育法	初等体育科教育法	
	学科共通領域	教育学特殊講義(初歩からの数学)	教育学特殊講義(児童英語教育実践研究Ⅰ) → 教育学特殊講義(児童英語教育実践研究Ⅱ) 教育学特殊講義(教職数学演習)	教育学特殊講義(児童英語教育実践研究Ⅱ)	教育専門演習Ⅰ 教育特別研究	教育専門演習Ⅱ 卒業研究	教育専門研究Ⅰ 教育専門研究Ⅱ
	コース共通領域	保健室への扉	子ども理解とケア				
	保健教育領域（養護教育）	学校保健 解剖生理学 栄養学	衛生学 学校看護学Ⅱ(疾病Ⅰ) 学校看護学Ⅰ(基礎)	公衆衛生学 学校看護学Ⅲ(疾病Ⅱ) 学校救急処置 生徒指導論(養護教諭)	保健統計学 微生物学 薬理学概論		
	子ども教育領域	世界と教育の研究 音楽表現Ⅰ → 音楽表現Ⅱ 運動基礎Ⅰ → 運動基礎Ⅱ	社会と教育の研究	幼保小中接続研究	教科内容研究Ⅰ → 教科内容研究Ⅱ → 教科内容研究Ⅲ 教科総合演習Ⅰ → 教科総合演習Ⅱ 科学的探究の方法	教師としての批判的リテラシー	
	子ども理解領域	多様な子どもとメディア 世界の子ども事情	多様な子どもと造形表現	多様な子どもと音楽表現	子ども発達環境論	現代の子ども・若者論 多様な子どもとICT論(プログラミングを含む)	病児教育論
	養護教諭としてふさわしい豊かな人間性 子どもの健やかな心と体を育みいのちを護る養護教諭としての熟慮や責任感を持ち、子どもが発するサインに気づき、迅速かつ的確に対処することができる。また、慈愛の心を持ち、子どもに寄り添い、多様なニーズを共感的に理解し、寛容な態度で子どもと接することができる。	教職一般領域	教育原論		教育実習指導 → 教育実習		
		初等教育領域		教育基礎演習Ⅰ → 教育基礎演習Ⅱ	養護実習指導 → 養護実習		
		学科共通領域		インターンシップⅠ → インターンシップⅡ			
コース共通領域		パフォーマンス演習					
保健教育領域（養護教育）		養護概説	精神保健 → 学校看護学Ⅳ				
子ども教育領域					教職演習Ⅰ → 教職演習Ⅱ 教職研究Ⅰ → 教職研究Ⅱ		
変化する社会、学校園で活躍できる力 養護教諭の職責と社会が求める役割を理解し、チーム学校の一員として、他の職員と連携し、子どもの抱える多様な健康課題の解決に取り組み、実現することができる。また、地域の医療機関や関連機関の機能を理解し、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。	教職一般領域				教職実践演習(養護教諭) 教職実践演習(教諭)		
	初等教育領域						
	学科共通領域		教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅰ) → 教育学特殊講義(プログラミング教育Ⅱ)	インターンシップⅢ			
	コース共通領域		子どもと家族・社会	児童福祉と子どものケア			
	保健教育領域（養護教育）		健康相談 臨床看護学演習				
	子ども教育領域	初等国語科教育演習 → 初等英語科教育演習			初等社会科教育演習 初等算数科教育演習 初等理科教育演習 初等生活科教育演習 初等音楽科教育演習 初等図画工作科教育演習 初等家庭科教育演習 初等体育科教育演習		
	子ども理解領域		初等英語科教育演習	インクルーシブ教育の理論と方法 教科内容探究 授業方法探究 学級経営探究	子ども企業研究 子どもサービス演習		
			子ども支援ボランティア論	子ども支援の仕事			